

インドネシア人の日本観光について

日本を訪れるインドネシア人旅行者の数は年々、増加しています。岡山県内の観光地でもインドネシア人観光客を見かけるようになりました。

2017年の訪日外国人数は2,869万人で、世界ランキングでは12位でした。2017年のインドネシアからの日本への観光客数は30万人を越え、2018年に日本を訪れたインドネシア人旅行者の数は39万人となりました。2020年には東京オリンピックが開催されることもあり、日本を訪れるインドネシア人旅行者は今後も増える見通しです。

熱帯の国に住むインドネシアの人々にとって、日本のように四季のある国で過ごす休暇は大変魅力的なようです。特に季節ごとに違った風景を見ることができ、様々な異なる体験をすることができる点に惹きつけられる人も多いようです。また多くの人々が日本=安全な国というイメージを持っていることも観光客の増加につながっています。

その他、理由として挙げられるのは、格安チケットのプロモーションが多く行われている点、インドネシアと日本の国交樹立60周年を記念したプロモーション、またイスラム教の旅行者に対してのプロモーションが盛んに行われたことなどが増加の理由として挙げられるようです。

トラベルフェアも開催されており、日本行きの往復航空券が3~4万円程度で購入できることもあります。また格安ホテルを探すためのオンラインサイト、インターネットアプリも多く利用されています。チケットもホテルも早くから予約することで安い値段で利用するなど、どちらかと言えばインドネシア人の日本旅行の特徴としてはリーズナブルな旅行を楽しむパターンが多いようです。

観光庁の発表した2018年の『訪日外国人消費動向調査』によると、訪日外国人旅行消費額は4兆5189億円です。そのうちインドネシアは1.2%を占める558億円です。

費目別に見ると、宿泊費189億円、飲食費115億円、交通費83億円、娯楽等サービス費22億円、買い物代149億円となっています。

また1人当たり費目別旅行支出は、宿泊費48,117円、飲食費29,156円、20,946円、娯楽等サービス費5,585円、買い物代37,599円、その他17円、総額141,4120で、2017年から9.3%アップしています。平均宿泊数は12.1泊です。

■ 観光地

インドネシア人がよく訪れる日本の都道府県として挙げられるのは東京、大阪、沖縄、神奈川だそうです。首都・東京と国際空港がある大阪、特に大阪は周辺の京都、奈良へのアクセスが容易なことから訪れる人が多いようです。

また神奈川は東京からのアクセスが容易であるほか、鎌倉の歴史的建造物や、富士山の見える箱根、インドネシアでも有名なドラえもんの作者、藤子・F・不二雄のミュージアムを目的訪れる人が多いようです。

また沖縄は独自の文化を持っている点、他の観光地に比べて物価が安い点、他の観光地とは違う落ち

着いた雰囲気が好まれる理由のようです。

その他、多くのインドネシア人が訪れるのが、北海道です。一年を通して温暖なインドネシアでは、雪を見たことが無いという人も多く、特に札幌雪祭を目的に訪れる人が多いようです。2017年のインドネシア人の北海道旅行者数は8.4万人と、2016年から2万人増加しています。

インドネシアのサイトで紹介されている、“訪れるべき日本の観光地”は、下記の通りです。

- 東京ディズニーランド
- 東京ディズニーシー
- 広島平和記念公園
- 藤子・F・不二雄ミュージアム
- 沖縄美ら海水族館
- 富士山
- 京都の寺社仏閣（金閣寺、伏見稲荷等）

特に京都では歴史的建造物が見たいというより、伏見稲荷などのSNS映えがする風景が人気なようです。また藤子・F・不二雄ミュージアムと同じく、人気上昇しているのが『名探偵コナン』に所縁のある鳥取県だそうです。

■ お土産

インドネシア人が日本を訪れた際によく購入するお土産として、インドネシアのサイトに掲載されているものは下記の通りです。

- 白い恋人
- 日本の入浴剤
- 東京バナナ
- リアルなマグネット（寿司などの日本料理）
- ハンカチ（日本のモチーフが描かれているもの）
- ユニークな文房具
- 扇子
- お面（日本のキャラクター、歌舞伎など）

その他、フィギュアなどのキャラクターグッズや日本の風景の描かれたタペストリーなどもしばしば買われるようです。私たちが海外に行った際と同様に、その国の人々には当たり前になっている意外なものが、海外の人々には魅力的に感じられるようです。日本人が海外の人々に見せたいと思うものと、海外の人々が日本を訪れ、見たいと思うものは少し違うのかもしれませんが。

今後、インドネシアを含め、海外からの旅行者が増えることにより、日本の埋もれている魅力を再発見してくれるのでしょうか。わたしたちも、外国人的な視点で、日本を見ることも必要になるでしょう。

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地 : Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 46

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,

Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者 : PT. JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア : インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。岡山県産業企画課マーケティング推進室(電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。